分團保育の實態調査

東京都保育會研究發表委員會

擔當者　都立西櫻幼稚園　山村さよ

新保育の目標が個人を對象として其の保育方法を考え出す樣に、「保育要領」を以て示されました以上、その一つの工夫としての分團保育ということについても、一應檢討して見る必要があると存じます。殊に四十名乃至五十名の幼兒を受持つ保姆が、その一人々々をはつきりみつめて行く爲には、一齊的保育よりもグループ保育の形をとらねばならないと思ふので御座います。しかし現在東京都公立の三十六園中、わづかに三園しか獨立園舍をもたず、しかも未だ復舊されない小學校に併設されてゐる狀態に於いては、どうしても理想の分團保育はなし得ないと言ふ聲が多く、舊態依然としていわゆる昔の型にはまつた保育をしている所が「なにしもあらず」といふ心配から、兎に角その實態調査をいたし、ありのままの現狀を報告していただいたわけであります。

第一回の調査としては、皆樣からいただいた報告を、言葉もその儘項目別に羅列したばかりでありますが、この結果によつて、なるほど分團保育は必要なことであつた。子供達を、このましい分團にさせ易い環境におくことが、大切なことであると感じたのであります。殊に失敗と、成功との點を比べて見ます時、又保育效果から見た一齊保育と分團保育の差を考えた時、嬉しく思われる報告が澤山ありまして、たしかに、新保育目標達成の一つの裏づけを、發見されるのであります。そうして努力工夫によつては、その失敗をつゞけないですむような具體的な希望まで、うかがひ知る事が出來たのであります。しかしこの努力工夫が並大抵の事ではなく、結局は保姆その人の教育的信念と技術にまつより他はないと思われるのであります。わけても、報告にもあります樣に、幼兒たちの緊張をほどく爲に出來るだけ樂しい遊び場所の工夫をしてやる事が大切で、これには保姆の非常な勞力が必要であり、且つ子供たちの動きにたえず目を見はつて、よい自然の分團にもつて行くべく機會を捕え、鋭い感覺を持つてゐなければならないと、つくづく思ふのであります。又、此の報告から感ぜられることは、分團保育が何か特別な、大變む

づかしいことの樣にも感ぜられますが、實は決してそうでなく子供の自然の動きの方向がまとめられて、あちこちに小さなグループがつくられるのでも充分だということも感ぜられるのであります。

調査の全體の結論として申上げたいことは、現在の東京都の公立幼稚園の環境では、毎日幼兒を好ましい分團におく事はとうていでき難い事で、保姆の仕事も過重になり易いから、分團保育と一齊保育をとりまぜて行なう他はないと言ふことに、一同の意見が一致したわけであります。不充分の小さい研究でありますが、此の調査を手始めに度々實態の調査をしながら、反省と努力をつゞけるために、皆さんの御批判と御協力を願いたく、一資料として發表いたします。

○分團保育の實態調査票

(一) 現在分團保育をする上にじやまになつている點
1、幼稚園の設備及環境
2、幼兒の家庭環境
3、其の他

(二) 分團保育の形式は
1、組の中で行いますか。
2、組をほぐして行いますか。

(三) 今までに行つた分團は左のどれに當りますか。
1、先生が計畫した分團保育を一週に何回位
2、幼兒の自由遊びを發展させた分團保育を、一週に何回位

(四) 分團保育を行つた結果は
1、失敗したと思ふ點
2、成功したと思ふ點
3、グループの人數は何人位が適當か
4、現狀のまゝでは、どうしても出來ないと思ふ點
5、努力、工夫によつては出來ると思ふ點
6、其の他

(五) 保育效果に現はれた分團保育と一齊保育との差
1、幼兒に及ぼす身體的影響
2、幼兒に及ぼす精神的影響
3、幼兒に及ぼす社會性上の影響
4、家庭に及ぼす影響
5、其の他

(附記)
◎この調査表に記入する際この項目以外に御氣付きになられた點がございましたら、お記し下さい。

○調査園數　東京都公立幼稚園三十四ケ所
(三十六園中二ケ所未提出)
○各園平均幼兒數　百二十名
○各組平均幼兒數　四十名
○各園平均教諭數　三名
(調査、昭和二十三年十月)

○調査報告（○印はどの幼稚園でも同一記入）

（一）現在分團保育をする上にじやまになつている點

（1）幼稚園の設備及び環境

○（イ）園舍が小學校と併設の爲學童に幼兒の生活をこわされる。

○（ロ）遊具不足、資材不足。

○（ハ）幼兒數に對して教諭數が少い。

（ニ）環境のすべてが分團保育に適さない。

（2）幼兒の家庭環境

○（イ）一齊保育をすることが幼稚園の正しい保育とのみ思ひ込んでゐる家庭が多い。

○（ロ）目に見える保育效果を（唱歌や遊戯を澤山におぼえること等）望み過ぎている家庭が多い。

○（ハ）今の生活狀態では各家庭で普通の禮儀、躾さへもしていない。それでせめて幼稚園で無理をしても、形の躾けをしてほしいと希ふ家庭が多い。

（ニ）家庭で幼兒に對する日常の教育があまりに强要することが多く、幼兒自らの發表、表現をおさへている傾向がある。

（ホ）放任主義と世話をやきすぎる家庭の差が甚しい。

（3）其の他（報告なし）

（二）分團保育の形式は

（1）・組の中で行いますか。

（イ）組の中で行います。（十三）

（ロ）一學期二學期は組の中で行います。

（2）組をほぐして行いますか。

（イ）組をほぐした方がやりよい。（七）

（ロ）特別の行事、遊戯等の時は組をほぐす。

（ハ）子供達が自然に組をほぐして自由に分團に加わる。

（ニ）計畫によつて適當に行う。

（3）其の他

（イ）兩方を行つている（五）。

（ロ）組の中の分團でさへきけんで築じられるのに、組をほぐしてなぞとても出來ない。

（三）今までに行つた分團保育は左のどれにあたりますか。

（1）先生が計畫した分團保育を一週に何回位行ひますか。

（イ）一週に一回位（一〇）

（ロ）〃　二回位（五）

（ハ）〃　三回位（四）

（ニ）〃　四回位（三）

（ホ）〃　五回位（三）

（ヘ）〃　毎日（四）

（2）幼兒の自由遊びを發展させた分團保育を一週に何回位行いますか。

（イ）一週に一回位（二）

（ロ）〃　二回〃（二）

（ハ）〃　三回〃（五）
（ニ）〃　四回〃（二）
（ホ）〃　五回〃（六）
（ヘ）〃　毎日〃（五）

（3）其の他

（イ）登園から集合までは殆んど組をほぐして分園を主とした保育をする。集合した後で三週間に一回——二回の分園保育をする。

（ロ）幼兒の自由遊びの發展でもなく、又保姆の計畫でもなく、發表力のある子供を一人づつグループに入れてリードさせる。

（四）分園保育を行つた結果は

（1）失敗したと思ふ點

○（イ）手不足の爲躾が徹底させにくく、計畫が最後まで遂行出來なかつた。

○（ロ）ぼんやりした社會性の乏しい子供はいつもこぼれている。

（ハ）子供達にまとまりがつかなかつた。

（ニ）全體に目がとどかず事故を起しやすい。又小學校の先生方から文句が出た。

（ホ）入園當初子供がかへつてしまつてもわからなかつた。

（ヘ）グループ以外の子供に刺戟されて落ちついて仕事が出來なかつたため、注意散漫となり、いゝかげんの仕事をするやうになつた。

（ト）自由意志を重んじたために放縱となつた。

（チ）特殊の子供に目がとどかない。

（リ）團體行動がうまくとれなかつた。

（ヌ）遊びがかたよつた。

（ル）職員數が少いために、自分がぼうつとして分園に入れなかつた。

（ヲ）監督なしには出來ない仕事を同時に二つ以上行つたために混雜した。

（ワ）子供達が利己的になつた。

（2）成功したと思う點

○（イ）幼兒がのび〳〵として登園を喜ぶやうになつた。

○（ロ）グループの目標に向つて相互的に協力し合い、樂しい雰圍氣をつくる（けんくわ等少い）。

○（ハ）積極的な自發活動が見られ社交性が出來て來た。

（ニ）一部の幼兒は非常に滿足し、仕事に沒頭し得た。

（ホ）仕事に對する興味を持ち喜んで自發的にしていた。

（ヘ）自己の自由表現が活潑になるので子供の個性がよくわかる。

（ト）自治生活が訓練づけられ、幼稚園生活への興味を早く見ることが出來た。

（チ）自然の形で保母の計畫の中へとけこんで來ることが多い。

（リ）いろ〳〵のことに對する發表力が增して來た。
（ヌ）子供が先生を信頼し安心して生活するので、個性がはつきりつかめるやうになつた。
（ル）子供ながらの批判力が養はれた。
（3）グループの人數は何人位が適當と思いますか
○（イ）五人から十人まで。
（ロ）年少組は五、六人、年長組は十人位。
（ハ）十人から二十人まで。
（ニ）分團の性質、目的の內容によつて違う。
（ホ）最高二十名迄で。
（4）現狀のまゝではどうしても出來ないと思ふ點
○（イ）幼兒が多すぎる。
○（ロ）材料不足。
○（ハ）設備不充分。
○（ニ）環境がわるい。
○（ホ）人手が足りない。
（5）努力、工夫によつては出來ると思ふ點
○（イ）保母の人數を增すこと。
○（ロ）遊具をそろえること。
（ハ）幼兒の氣分轉換によつて、机の配置等工夫すること。
（ニ）晴天の時は園庭を利用して充分な計畫さえすれば滿足な保育が出來ると思う。
（ホ）家庭とよく連絡をとる。
（ヘ）資材を豐富にして前日充分な用意をしておく。
（ト）組をほぐして行ふと（幼兒の興味を中心に）種類の少い材料を多くの子供によく活用することが出來ろ。
（チ）保姆が新保育をよく理解し念頭からはなさずいつも心にかけていることが何より大切と思う。
（リ）子供のリーダーをうまく指導すること。
（ヌ）子供達の心をもつと緊張からほどいてやること。
（6）其の他（なし）
（五）保育效果から見た分團保育と一齊保育の差
（1）幼兒の身體的に及ぼす影響

（分團保育）

（イ）表面に現はれる程の變化はないが幼兒が活動的になり潑剌として來た
（ロ）疲勞が少い
（ハ）少人數を對照とする爲子供の健康狀態がよくわかる
（ニ）活動性のある子供は常に身體をうごかすのでますます活動的になつて成長が見られるが逆な子供は置きざりにされる

（一齊保育）

（イ）常に緊張してゐる爲に神經質になる幼兒がある
（ロ）落ちこぼれなくある程度同じ活動が出來る
（ハ）いろ〳〵の個性の子供を一緒に保育することは幼兒の身體に無理が多い
（ニ）誰もが一緒に歩いたり踊つたりすることは見た目を滿足させるのに過ぎない
（ホ）一齊保育といへども指導の如何に依つては身體的

（ホ）子供に依つて又分團に依つてつかれの甚しいときがある
（ヘ）身體的の發達に無理がない
（ト）いつも製作にばかりかゝりつきりの子供は健康上どうかと思ふ

（2）幼兒に及ぼす精神的影響

（分團保育）

○（イ）子供に劣等感をいだかせないですむ
○（ロ）粗野になつたり落ちつきない幼兒が多くなるやうに思ふ。しかし組をほぐした場合は幼兒全體の親しさが增して教育されているといふ感じが少い。
○（ハ）意志表示がはつきりする
○（ニ）よき分團が出來た時は幼稚園に對する安心感に惡影響を及ぼすことはないと思ふ
（ヘ）子供に疲勞があつても保母にわかりにくい

（一齊保育）

○（イ）躾がつけやすい
○（ロ）忍耐力が出來る
○（ハ）劣等感をもつ子供が出來る
（ニ）一齊に保育した場合には子供達が何か自分といふものをおさへてゐるので落ちついて皆と一緒にするといふ態度はよく養はれるがよそ行きの氣分がとれない
（ホ）動と靜とをはつきり味はせることが出來る
（ヘ）皆と一緒にすることを喜ぶ
（ト）わがまゝが矯正される
（チ）十人十色の子供を一齊にするので進步的な子供はある程度でとまり非社交的な子供は餘程注意しないともれる心配がある
（リ）落ちつきが出來る
（ヌ）きらいなことも一緒にさせられる爲に不眞面目な者が出來て又先生への依賴心が强くなる
（ル）先生の話によくきゝ入る
（ヲ）全體的に協力する

（一齊保育）

（イ）內氣な子供を發展性の子供に近づけ得る
（ロ）社會的の規則が守られ易い
（ハ）意志をよく發表する
が出て各兒の遊びが自然に發達すると思ふし又先生に對する信賴感が深くなる
（ホ）一部分の子供が專橫になる
（ヘ）子供が潑溂として仕事に向ひ研究心が養成される
（ト）けんくわをしても子供達が解決する
（チ）計畫的に遊びをするやうになり自制心も出來て來るがすき嫌ひの差がはつきりしてわがまゝになつた
（リ）グループの和は好むが全體的に協力しない

（3）社會性に對する影響

（分團保育）

○（イ）社會性が發達する
○（ロ）好むグループに入り滿足する
○（ハ）意志をよく發表する

ことが出來る
(ニ) 個性がはつきりわかる
(ホ) 子供の周圍に對する批判力が出來る
(ヘ) 仲よく敎へ、ことに年少の者をいたわる
(ト) 利己主義になる
(チ) 子供同志の制裁でうなづき自己を抑制する
(リ) 發表性のある子供と内氣な子供とで伸び方の差が甚しい
(ヌ) 園外保育の場合ならんで歩けない
(ル) 思ひやり、うるほいのある子供が出來る
(ヲ) 積極的に遊ぶやうになる、獨立性、及び責任感が養へる
(ワ) 遊びに深味が出來る
(4) 幼兒の家庭に及ぼす影響
(分團保育)
○(イ) 分團保育に對する理解がない爲に一齊保育を望む家庭が多い
○(ロ)他の子供が新しい唱歌をおぼへいろ〳〵のお仕事をする時仲間に入り得ない事を親自身さびしく思ふらしい
○(ハ) 幼稚園へ登園する事を喜ぶやうになつた
(ニ) 自發的となり家の手傳ひをよくする
(ホ) 自分で自分を處理するやうになつたと喜ぶ
(ヘ) 家庭でも自分の好きな事ばかりやつてゐて大人の言ふことをきかない
(ト) 細かい躾が屆かないとこぼす家庭がある
(5) 其の他
(分團保育)
(イ) 子供達が自分の目でみつめる力が生れた
(ロ) 製作なぞした場合作つた子供は持つてかへり
(ハ) 秩序を守り易い
(ニ) 注意力を集中させ得る
(ホ) 消極的になりやすく明朗さをかき明るい遊びが見られない
(ヘ) 社會性をかき個人的になり易い
(ト) 個性が失はれやすい
(チ) 自發性をかく
(リ) 保母に賴りすぎる
(ヌ) 協同性が見られない
(ル) 自分の意志をはつきりさせず他人の意志にしたる傾向が見られる
(一齊保育)
(イ) 保母の意志通りに動く幼兒達の樣子を見て幼稚園に出した甲斐がある と喜ぶ家庭が多い
(ロ) 幼稚園で一齊的に躾けた規則正しい生活を家庭に延長して喜んでゐる
(ハ) 一齊保育が正しい保育と思ひこんでゐる
(一齊保育)
(イ) 手不足の事から考へた場合一齊保育の方が身體的のけがが少い
(ロ) 他動的でわるいかも

たがるが、作らない子供の事を考へると持たせられない

（八）子供の遊びが一方的になり一日何もせずに運動場で遊ぶことが多い

しれないがまとまりがつく

（八）個性はのばすがある場合は社會生活をする人の爲に我慢する。協力する氣持ちを養ふ上に一齊保育も必要である

（六）附記（此の調査表に記入の際この項目以外にお氣づきになられた點が御座いましたらお敎へ下さい。）

（イ）小學校に併設されている幼稚園は常に學校との折合いを考へるので、幼稚園だけを切離して○保育は考へられない。

（ロ）自由に保育された子供は、學校へ行つて喜ばれない點がある。

（ハ）年長、年少兒、及び昨年度から引續き保育を受けているものゝ混合組にした。その結果は割合に仲よく出來る。

（ニ）一日の中適當に一齊保育を入れて氣持ちを整理し安靜にさせることが必要と思ふ。

（ホ）實際の統計には大分理想が入つて來るのではないか。

（ヘ）分團保育も一齊保育も兩方によい所があると思ふので、とりまぜて正しい方向に持つて行き度い。

（ト）現狀のままでは小學校も幼稚園もお互に困難が多いし、又此のままでは新保育を完全に行ふ事は出來ないから、是非獨立園舍の增設をのぞむ。

（チ）一齊保育と分團保育をくらべた時に理論ではいろいろと差が出て來ますが、實際にはあまりよくわかりません。

（六頁より）

人が Streber を卑むといふ思想を有してゐないからである。

（當流比較言語學）

鷗外がこれを書いてたのは明治四十二年である。それからもう四十年にもならうといふのに、相變らず日本では學界にも藝術界にも敎育界にも、謂ふ所の Streber が充滿してゐる。だが、私の知る限りでは幼稚園にはこの Streber が少いやうである。又萬一 Streber がゐては、取扱ふ對象が純心な幼兒であるだけに弊害が深刻であるが、Streber の存在をおのづから少くするやうなよい雰圍氣がここにはあるのではないかといふ氣がする。自分が献身をしないでゐて人に献身を要求することは出來ないが、幼稚園の仕事は Streber の仕事でなく正に献身であつて欲しいと思はずにはゐられない。それだからこそ私共はこの仕事を讃美し、この仕事を尊敬するのである。技術や理論はそれからである。